

えがお



平成30年度
No. 3
9月26日

伊那市
よりよい
教育環境
推進連絡会

暑さで外出も少なく！

～夏期休業補導活動日誌から～

生涯学習課青少年係長 井坪 聖
学校の夏期休業に合わせて、七月二十七日から十一回の伊那市長期休業特別街頭補導が行われました。伊那市少年補導委員会を中心に学校職員・PTA役員が指導班と
なつて巡回するものです。
駅・公園・商店街・カラオケ店・ゲーム店・大型店などを回りましたが、今年の夏は特に暑さが厳しかったので、そのせいか各所とも子どもたちの姿が少なく、問題のある行動は見られませんでした。



場所ごとの様子は
大型店 家族連れ
はいても子どもた
ちだけというのを見られませんでした。どこも
健全だと見受けられました。

カラオケ店 日によって小学生だけ・中学生だけという集団があり、規則の徹底が必要と感じられました。

書店 静かに本を読んでいる姿が多くありま
した。店側の評判もよいものでした。

ゲーム店 カードゲームにお金を賭ける中学生もいるようですが、そのほかは健全に遊んでいました。例年に比べて人が少なく、いても親同伴が多かったです。

気候の影響が思わぬ結果となりました。
お忙しいところ、また暑い中補導活動に入つていただいた学校職員、PTA役員の皆様、育成関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

学校・公民館が 手をつないで行う人権教育

王滝村の実践に学ぶ

郡の社会教育指導員全員で木曾王滝村に出かけました。珍しく子どもたちの先輩である公民館主事がファシリテーターになって、授業を進めている実践を学ぶためです

住民も、当然児童生徒も減少する地域にあつて、子どもたちと村民が手を携えて人権教育を進めることは、今後どこでも行うべき企画になつていくはずで、そんな先進的な試みを王滝村で見えてまいりました。

「うそ」という概念をテーマに、小中学校児童生徒三十八名と先生方二十名、村民および我々参加者二十名余がロールプレイを行いました。



何回も実践を重ねてきているせいか、違和感なくさつとグループづくりができ、授業が進められていきました。小中学生もはきはきと意見発表をしていました。

人権教育というと、とかく一方的な指導がみられますが、お互いの思いを聞き合うところから始まると、心に浸みいるような気がしました。和気合い合いの雰囲気味わった一日でした。

学校のバンドから

美篤地域のバンドへ

「美篤小金管バンド 祝 東海大会出場！」

本校では金管バンドの課外活動を行っています。その歴史を紐解くと、昭和五十三年にやまびこ国体開会式の出演に伴い吹奏楽器を整備したときに始まりがあるようです。平成十三年の開校百周年記念式典事業として地域の皆様からいただいたお金の中から金管楽器を購入していただき、残った金額を金管バンド維持費として楽器の修理等に使用させていただきました。

今年度は三年生以上の四十二名で活動しています。金管バンドは課外活動であるため、平日は、八時から十五分間と火曜日と金曜日の放課後に三十分間、休日は必要に応じて三時間程度の練習を行っています。限られた練習時間の中で、仲間と一緒にサウンドをつくり上げていくために、子どもたちは、前日に練習会場を準備しておくことや練習開始時刻までに自分の楽器の音を準備しておくなど、創意工夫しながら練習に取り組んでいます。こうした地道に取り組む姿勢は、行事や大会のためだけではなく、普段の自分の学校生活の中にも生かされています。

七月二十八日に松本市のキッセイ文化ホールで行なわれた長野県小学校バンドフェスティバル（ステージ部門）に出場しました。そして、東海大会への出場校に選ばれました。子どもたちの日頃の練習の成果と先輩方から引き継がれた音楽への情熱、顧問の先生との信頼関係の結果に表れたと思います。南信地区では唯一の学校として、十月十四日に岐阜市で行われる東海大会に出場します。東海大会では、上位三チームが全国大会へ進むことができます。

今年度は、美篤地区の二つの福祉施設

の訪問も行います。地域の皆さんに支えられ、単に学校のバンドというだけでなく、美篤地域のバンドとして意識して活動している子どもたちです。今後の活躍も期待せずにはられません。



美篤小学校



【学校教育目標】本気、根気、和気、元気！

本気とは、何事にも自分の精一杯の力を出すことです。ただやみくもにやってもうまくいかない。よく考え、友と協力して、力を伸ばしていくことが大事になります。そのために、特に今年、人の話をよく聞き、自分の考えを持つことに挑戦しています。

根気では、昨年、掃除に取り組む姿が伸びてきました。根気は、目標をもって、最後まであきらめないことが大切です。今年、最後までというところを大事にしたいと思います。掃除だけでなく、いろいろな場面の後始末まで気にかけて見返すことを大切にしています。

和気では、思いやりや助け合いの心をさらに磨いていきたいです。挨拶もよくなつてきています。今年、「おはようございます」や「こんにちは」という挨拶だけでなく、聞かれたら「はい」という返事にも気を配って生活しています。返事があることで、心のやりとりができるからです。無視はしないということです。元気では、けがや交通事故がないというだけでなく、時間を守つて安全にきびきびと生活することが元気につながります。昨年「歯」の治療が済んでいない人が多かつたようです。六年生は全員が、歯を大事にする「8020推進員」となっています。虫歯ゼロの学校になれるように、治療の達成度を示しながら、家でも学校でも食後の歯みがきに取り組んでいます。

【地域に支えられる学校の安心・安全】

児童の安全を守る訓練は、訓練だけで終わって欲しいのですが、残念ながら美篤地区でも不審者情報をメール配信する事態となりました。こうした事態を踏まえて、「美篤小の子どもを守り育てる会」では、各種団体の皆さんが子ども達を守り育てるためにどんなことができるか話し合い、様々な取り組みをしてくださっています。登下校の時間に畑仕事に出てくださいたり、民生児童委員の方が、登校班へ同行していただいたりしています。また、新規の安心の家を複数紹介していただきました。子ども達の安全に、多くの方が関心をもって行動してくれていることに感謝です。地域のみなさんにも見守られていることを子ども達にも伝えることで、安心して登校できるようにするとともに、地域の一人としての気持ちを育んでいきたいと思ひます。

西春近北小学校

権現山のすそ野で明るく

元気よく過ごす子どもたち

二十八名の一年生を迎え、全校児童百七十一名が、いつも明るく元気よく過ごしています。

【たてわり活動の充実をめざして】

小規模校のよさを生かし、学年の枠をこえて縦割り班をつくり活動をしています。先輩から後輩へ受け継がれ、それがやがて伝統になってゆく。同じ西春近の地に生きる仲間として縦割り活動を大切にしています。

毎年、秋の児童会まつりにおける焼き芋大会のためにサツマイモを縦割り班で育てています。苗植えから草取り、そして収穫に至るまでをすべて子どもたちで取り組んでいます。苗の植え方ひとつも、先輩が後輩に丁寧に教え、後輩はそんな先輩の姿に憧れる。そして自分もいずれ先輩になって、後輩に伝えていく。こうした活動が長年続いています。今年度はさらに一年生と西春近北保育園の年長さんもサツマイモの苗を一緒に育てています。小学校では最も後輩である一年生は、年長さんから見れば立派な「先輩」です。年長さんにていねいに教える姿はほほえましいものです。どちらも秋の収穫が楽しみです。



地域のみなさんと共に

西春近は自主自立の気風高く、地域が一丸となっています。学校に対しても非常に協力的な土地です。その良さを活かし、コミュニティスクール「ごんげんまなびや応援隊」を組織し活動しています。花壇の整備などの様々な支援に取り組んでいます。夏休み中にはPTAと同窓会が連携して恒例の「そばまき」を行いました。秋には収穫し、専門家から手ほどきを受けてそばうちをします。



豊かな自然、恵まれた地域環境の中で、歴史と伝統の上に立ち、地域に力強く生きる子どもの姿をめざし、四つの教育目標が掲げられています。この学校目標の具現のために、本年度は重点目標を次のように掲げています。

学校教育目標

- 明るい子ども
- あたたかい子ども
- かしこい子ども
- たくましい子ども

「明るい子ども」

本来持っている素直さや明るさを大切にして個性を伸ばす

「あたたかい子ども」

自他の命や生き方を考える心を育てる

「かしこい子ども」

主体的に学び、自分の考えを持ち、伝えられる児童を育てる

「たくましい子ども」

何事も最後までやり抜く心身共に健康な子どもを育てる

子どもたち一人一人の声を響かせよう！

○うたごえ ○おもい ○あいさつ

心を解き放ち、お互いを思い、確固たる自分を持つ。そんな子ども像をめざしています。

【西春近北小学校子ども安全見守り隊の活動】

会員数六十二名で今年度はスタートしました。五月には隊員の皆さんとの対面式を行い、改めて日頃の活動への感謝を述べました。大雨の際には水路近くや倒木の現場に立ってくださって、子どもたちの安全な登下校のためにご尽力いただきました。地域に生きる子どもたちを地域の大人たちが温かい目線で見守りながら、地域全体で育てていく。そんなよき



が西春近の地にはあふれています。

高遠中学校

地域の方々や高遠高校生とともに学ぶ

初夏の高遠を描く写生会



高遠中学校では毎年五月下旬に全校で写生会を実施しています。生徒たちは事前に下見をして、どこからどの風景を描くか決めておき、当日は朝から迷うことなく写生に打ち込みます。よりよい作品にするためにはどう描いたらよいか、悩む生徒もいますが、そんな生徒のために地域にお住まいの元美術の先生方がボランティアで支援して下さいます。今年も三名の先生方が学年を一人ずつ担当して、一人ひとりにアドバイスをしてくださいました。昼食後は学校に戻って、教室で着彩の仕上げをします。ここからの支援者は地元高遠高校、芸術コース美術専攻の先生と高校生皆さんです。高校生たちは中学生の制作の様子を見ながら、「こう描いたらいいよ」「きれいな色が出ているね」などと声をかけてくれました。



高遠高校生による書き初め教室

毎年、書き初めの練習をする時期に、高遠高校芸術コース書道専攻の先生、生徒の皆さんが中学生に指導をして下さいます。昨年度は、二年生全員が目的のホールに集まり、高遠高校の書道の先生、泉逸男先生から書き初めについてのお話をうかがって、実際に書き初めに取り組みました。今回のテーマは「新たな目標」です。高校生の皆さんは、練習する中学生の様子を見て廻って、朱墨で見本を書いてみせるなど、支援をして下さいました。教えていただいたことを参考に、清書しました。正月、教室には書き初めの作品が貼り出されましたが、勢いのある文字からは自信が感じられました。

高遠高校では、高遠学園構想のもと、「地域づくりの中学校」としての学びの創造を目指していますが、今回紹介したような中学生との協同学習を通して、中学生・高校生ともに自分のよさに気づき、ともに学ぶ喜びを感じています。

学校教育目標

「学則得」(学べば即ち得る) ※伊澤修二先生の教えより
高遠の子(めざす子どもの姿)「挨拶愛語」「清掃不言」「花作相見」「歌声響合」

登下校時の安心・安全の取り組み

学区が広範囲に広がり、徒歩、自転車、バスといった様々な方法で登下校している本校は、一人ひとりの通学路にそれぞれ違う危険箇所があります。そこで、入学式の翌日には地区ごとの集団登校を行い、新入生に二、三年生が登下校のやり方を教えています。また、大きな安心安全マップと危険箇所の写真を正面玄関の廊下に掲示し、実際の状況を思い浮かべて安全対策を考えた。分会(地区生徒会)でも危険な箇所の確認を行っています。

